

2 0 2 1 年 度 事 業 報 告 書
(令和3年/2021年4月1日から令和4年/2022年3月31日まで)

特定非営利活動法人西中国山地自然史研究会

1 事業の成果

西中国山地自然史研究会は、環境保全・里山文化の継承・生物の多様性などの観点から西中国山地の豊かな自然環境を保全し、地域社会に貢献することを目的に活動をしている。

教育事業では、地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携促進に向けた実証事業で、企業や行政と連携し、「さとやま未来ツアー」のプログラムづくりとガイド育成をおこなったところ、2つのツアープログラムと町民を含む22名のガイドの育成、ガイド教材などのデジタルコンテンツが完成した。**調査・研究事業**では、自然観察手帳を用いた美和地区のサクラソウのモニタリングの継続的な体制が構築できた。**保全活動**では、ひろしまの森づくり事業3年目を終え、オークガーデン周辺の森林整備とその活用方法を見出せた。**高原の自然館運営事業**でも、新型コロナウイルスの影響で、臨時休館があったが、その期間の情報発信を行なった。**地域づくり支援事業**では、行政・学校と連携し、コーディネーター1名を雇用し、地域の高校の魅力化として、学習支援や会議の設定などを実施した。

総じて、2021年度は教育事業や地域づくり支援事業に若い世代の参加や参画する動きが特徴的であった。コロナ禍で自然体験や田舎暮らしが注目される中、いきものや環境の保全活動を支える次世代の育成や、SDGsに基づいた体験活動が求められる。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

| 事業名 | 事業内容 | 実施日時 | 実施場所 | 従事者の人数 | 受益対象者の範囲及び人数 | 支出額(円) |
|----------------------|--|--|-------|------------|--|-----------|
| 教育事業 | 自然史科学の普及に寄与するため、観察会・学校授業・ツアー受け入れなど必要な活動を行なった。 | 自然観察会/10回 小中学校授業など | 広島県内 | 25人 20人 | 一般市民等 170人 学校のべ300人 | 914,817 |
| 自然保護のための調査・研究および活動事業 | 自然史科学の普及に寄与するため、研究・調査を企画し、必要な事業を行なった。 | 通年 | 北広島町内 | 6人 | 不特定多数 | 41,920 |
| 自然保護・活用のための保全活動 | ・地域住民・ボランティアと協働で里山や草原などの生態系、およびブッポウソウ・サクラソウなどの希少種保全活動を行った。 ・森林整備、里山保全を目的とした芸北せどやま再生事業と森づくり事業(のんだに)を担った。 | 草原保全活動/年7回 希少種保全/通年 森林整備/6月～12月 せどやま事業/通年 | 北広島町内 | 117人 | 一般市民等 芸北せどやま再生事業の成果 受け入れ状況340トン (2,209,487円) 地域通貨 発券: 1117枚 回収: 1749枚 事業収入342トン (6,201,840円) 登録林家実働数: 44人 登録30店舗 | 7,329,564 |
| 自然保護のための情報発信事業 | 西中国山地の自然や活動の情報をインターネットや研修会などで発信した。 | 通年 | 広島県内 | 3人 | 不特定多数 | 16,237 |
| 高原の自然館が開催する事業へ | 高原の自然館の諸活動を支援するために、展示や学 | 通年 | 事務所 | 5人 | 高原の自然館利用者 | 2,213,465 |

| | | | | | | |
|------------------|--|----|-----|----|-----------------------|---------|
| の参加・協力事業 | 習資料の開発, 教育普及プログラムの開発など, 教育普及活動および必要な研究活動を支援した。(コロナで休館期間あり) | | | | 3,392人 (前年は4,925人) | |
| 環境保全に関する物品の製作・販売 | 自然史科学の普及のために必要な物品を作成した. また, 物品や書籍等を販売した。 | 通年 | 事務所 | 2人 | 不特定多数 | 30,990 |
| 地域づくり支援事業 | 地域づくりに関わる会議の出席や, 学校の学習支援を行なった。 | 通年 | 事務所 | 2人 | 不特定多数 | 749,640 |